

P1-088

小児科で付き添いや面会ができない保護者の不安を軽減する関わり ～SNS活用によるオンライン面会と情報提供を実施して～

佐藤 愛心、小松 美和子、本塚 彩美、森岡 美花、菅原 楓

札幌徳洲会病院

【はじめに】

入院中、症状や処置などに苦痛や不安を感じている患児が多いことが予測されるが、その状況下で入院中の患児の苦痛を軽減し安心を与える存在は保護者だと言える。しかし、現在新型コロナウイルス流行により、感染拡大防止のため面会制限や保護者の付き添い入院を制限していることで、不安や寂しさを抱えている患児や保護者が多くいることが考えられる。コロナ禍における新たな面会方法としてオンライン面会が導入されており、A 病棟でもオンライン面会の実施やメッセージ機能活用により入院中の患児の様子を保護者へ情報提供することで、患児・保護者ともに不安を軽減できるかを明らかにする。

【目的】

ソーシャルネットワーキングサービス（以下 SNS と略す）を活用し、オンライン面会の実施や保護者への患児の様子を情報提供することで保護者の不安を軽減することができるのかを明らかにする。

【方法】

研究対象：A 病棟に一人で入院している患児の保護者。データ収集方法：半構成的面接法

【倫理的配慮】

本研究は A 病院倫理審査委員会の審査承認を得て実施した。

【結果】

オンライン面会と情報提供実施後の保護者の気持ちは実際、安心、その他の三つのカテゴリーに分類された。オンライン面会は「ほぼ毎日」実施することができ、「オンライン面会を提案されて安心した」「看護師が情報を教えてくれて安心した」などと発言が聞かれた。

【考察】

入院中患児と家族は様々な不安を抱えている。不安を軽減し安心感を与えるような関わりは必要であり、それは看護師だけでなく保護者の存在も大切である。コロナ禍により面会を制限されている状況でもオンライン面会という新たな『会う』方法によって、保護者と離れた入院生活でもテレビ通話で保護者と会話でき、患児と保護者の寂しさや不安を軽減できると考える。

【結論】

入院中患児や保護者には様々な思いがある。現在新型コロナウイルス流行による面会や付き添いの制限は、更に両者の様々な不安を増強させる原因だと考える。しかし、そのような状況下でも不安だけに偏ることなく安心感を得ることができたのは、毎日のオンライン面会や情報提供の効果である。

P1-089

小児病棟の看護師が白血病患児と家族へ実施している緩和ケアに関する文献検討

草野 淳子¹、山口 礼華²、足立 綾¹

¹大分県立看護科学大学、

²元大分県立看護科学大学

【緒言】

「がんと診断された時からの緩和ケアの推進」が重点的に取り組むべき課題として位置づけられている（厚生労働省 2018）。本研究の目的は、小児病棟の看護師が入院中から長期在宅管理に向けて実施している白血病患児と家族への緩和ケアについて、文献検討を行い明らかにすることである。

【方法】

文献は医学中央雑誌 Web 版より、2011 年から 2020 年までの原著論文を検索した。キーワードは、「小児」「白血病」「緩和ケア」「終末期ケア」「ターミナルケア」「看護」として、目的に合致する 18 文献を抽出した。文献の記述を抜き出し、類似性ごとに整理し、大カテゴリー、カテゴリー、サブカテゴリーに分類した。

【結果】

374 の記述内容が抽出され、36 のサブカテゴリー、10 のカテゴリー、3 の大カテゴリーが生成された。文章中の大カテゴリーは [], カテゴリーは [] で示した。[看護師が患児の入院中に実施している緩和ケア] の大カテゴリーは [医療者が予告告知の準備をする] [患児の頑張りを認め気持ちに寄り添う] [患児の発達段階に合わせて疾病理解への援助をする] [皮膚障害などに対する患児への看護援助] [患児の社会性を養いピアサポートを支援する] [集団生活への橋渡しをする] のカテゴリーで構成されていた。[看護師が患児の入院中に実施している親への緩和ケア] の大カテゴリーは [親の思いに寄り添いケアの指導をする] [患児と親の悩みに向き合う] のカテゴリーで構成されていた。[多職種間の連携と在宅管理に向けた緩和ケア] の大カテゴリーでは [多職種間で情報共有を行う] [長期在宅管理に向けての支援] のカテゴリーで構成されていた。

【考察】

看護師が患児の入院中に実施している緩和ケアとして、看護師が患児の主体性を支援することは、患児の気持ちに寄り添い、患児の意思表示の機会を増やすことに繋げることができると考える。看護援助については、処置や内服の工夫をしており、患児は不安を持っているため、ケアや内服援助をする際に患児に合った工夫をすることは重要である。さらに、子ども同士の交流の場づくりや社会性を養うなど集団生活への橋渡しをすることは、在宅に戻ってからの人間関係の構築をスムーズにすると考える。看護師が患児の入院中に実施している親への緩和ケアとして、看護師が親の思いに寄り添い、家族関係の調整を行うことは、親を近くで見ている患児へのサポートにもつながると考えられる。